

あなた 市民が主役の

まちづくり

あなた 「市民が主役のまちづくり」を目指し 桜川市パートナーシップ研究会を設置

11月25日に、桜川市大和ふれあいセンター「シトラス」において、第1回桜川市パートナーシップ研究会が開催されました。

この研究会は、本市のかか「市民が主役のまちづくり」の実現を目指し設置されたもので、本市における市民参加のまちづくりの課題や方向性等について協議を重ねていきます。平成21年度中には、市民参加のまちづくり指針をまとめ、その指針をもとに、市民の皆さんが生き生きと取り組めるまちづくりを実現したいと考えています。

委員には、公募やNPO・ボランティア団体で活動している市民の皆さん7名と市職員8人が委員となっており、また、隣のページで紹介しています。筑波大学大学院教授の蓮見先生をアドバイザーに迎えています。

つた後、蓮見先生の講話があり、その中で、「ものを作ることもよき作るまでの過程が大切、まずはつくることを楽しむこと」とお話がありました。委員も「市民の皆さんが生き生きと参加できるまちづくりについて、いろいろと勉強しながら、桜川市の未来につながるようがんばりたい。」と、抱負を語っていました。



パートナーシップ研究会委員の皆さん。自分たちの実践活動を通してまちづくりの指針をまとめていきます。

市民団体の活動をサポートする桜川市地域SNSコミュニティが誕生
市ホームページ内に、市民団体などの活動をサポートする「桜川市地域SNSコミュニティ」が誕生しました。これは、市民活動に取り組み団体などをつなぐ新しいコミュニティスタイルとして、各団体の情報を発信したり閲覧したりできるサイトです。また、スタートしたばかりですが、このようなサイトも活用しながら「市民が主役のまちづくり」の実現を目指していきます。



現在、10団体が登録されています。

「まちづくりは楽しいもの」

まちづくりというと行政の仕事と思われがちですが、実はとても身近なもので、誰にでもできるものなのです。

例えば、家の周りのゴミを拾い歩くこともまちづくりですし、子どもたちの安全を見守ることもまちづくりです。もつと付け加えれば、みんな花を植えたり、何かイベントを開催したりすることもまちづくりです。

まちづくりという言葉はとても広い意味で使われていますが、近年は、自分の手でまちをよくするために活動することが、まちづくりの主流になってきました。地域はみんなのものです。自ら活動する人が多くなればなるほど、地域はもっともつとよくなります。行政は、そのような活動をしている人や、これから活動する人をサポートすることが大きな役割になってきています。

まちづくりは楽しいものです。「誰かにやってもらう」ではもったいないです。

市民主体による まちづくり活動について

筑波大学大学院教授 蓮見 孝氏

■地域は先進地

これまでの都市型の「成長・発展」の時代には限界があり、これから力をつけていくのは地域であると言えます。

都市に比べ、私たちの住む地域は、現在、少子高齢化・過疎化・産業の空洞化などという、切実な問題に對峙しています。これらの問題は、いずれれ都市でも持ち上がります。そのような観点からみると、私たちの地域は先進地であり、地域できちんと生活が営まれるようなことを構築できれば、日本を救うことができると言えます。

経済とか消費だけを尺度とした時代から、人の生活の質とか価値観というものを第一の基準に考える時代へと変わり、それが地域から始まると考えればいいのです。

■日本酒と3つのQ

さて、それではまちづくりを「日本酒と3つのQ」を使って説明しましょう。1つ目のQは「QUANTITY」

「量」です。戦後は物が不足し、酒飲みの人にはたっぷり飲みたいと考えていました。つまり量が大切だったのです。2つ目のQは「QUALITY」(質)です。酒がたっぷり飲める時代になると、高級な酒が飲みたいと考えるようになりました。これが質を求めると言えます。

3つ目のQは「QUEST」(意味)です。高級な酒の次は、意味のある酒、つまりは物語のある酒が飲みたいとなります。その酒は、地方の酒(地酒)です。時代は、意味を求めようになりました。これは都市がつくるブランドの時代が終わったことを意味しています。

このような流れは、まさにまちづくりにも当てはまります。量・質から意味へと、そして都市から地方へと移っているのです。これに、ともない多様な価値観が生まれているのです。

■地域の時代

現代社会は、価値観の多様化した時代です。「ものづくり」から「ことづくり」へ、成果主義からプロセス主義へ、生活の軸が個人の価値観

へと変わってきました。言い換えれば、つくること(プロセス)を楽しむこと、それは生きがいとなり、生活の質を向上させていきます。

私たちは、良い場所に住んでいます。私たちの住む地域は先進地として、日本全体の再生をも担っていくことができると言えます。

新たな地域時代、これから必要なことは生きていくための知恵だと思えます。私たちの住む地域の生業を活かした生きがいのあるまちを、市民が自ら考え創ることではないでしょうか。都市では味わえないものが桜川市、いや各地域に沢山隠れています。

市民が主役のまちづくり講演会の開催について

■日時／3月7日(土) 13時30分

■場所／桜川市大和ふれあいセンター「シトラス」

■演題／「地域再生プロジェクト 参画型デザインングの実践と効果」

■講師／蓮見 孝氏

■問合せ／企画課市民協働推進室 (☎0296-2016300)